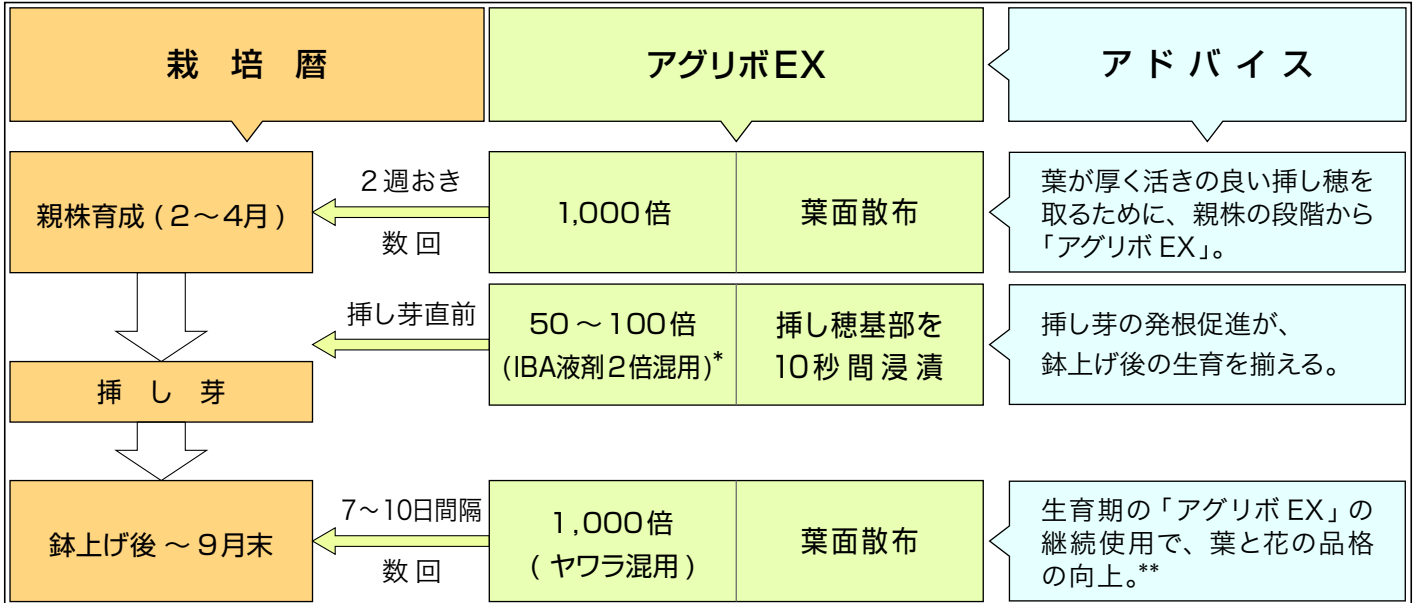


品格のある菊作りを目指す！

茎葉のしっかりしたボリュームのある菊を作るために、苗作りや挿し芽の段階から「アグリボ EX」がお役に立ちます。引き続き生育期の「アグリボ EX」と「ヤワラ」の混用散布で、根張りが向上し、茎の下位節間が詰まり上位で肥大し、葉では枚数の増加・葉面積の拡大が起こります。開花の時期には、葉の厚さと艶・花の大きさ・花弁の（本来の）色とボリュームの違いに気付かれるでしょう。



* ホルモン剤（IBA液剤）との高濃度混用浸漬で、きれいに歯ブラシ状に発根します。
（団子挿しの場合は、鹿沼土200ml・IBA粉剤10gに「アグリボ EX」を2～4mlの割合で混用）
詳細は、「菊の挿し芽の時のアグリボ EXの使い方」を参照

** 「アグリボ EX」を継続して散布すると、光合成の促進と根量の増大のため、菊は「多肥を受ける」樹質になります。
様子を見ながら肥料切れにならないよう注意しましょう。

日照量の確保

夏場の日照量は7～8万ルーメン/m²位になるため日除けをしますが、菊は日光を好む陽性植物ですので、最低3万ルーメン位の日照は必要です。「アグリボ EX」の継続散布で、葉が厚くなるので直射日光にも強くなり、葉焼けも極端に少なくなります。

葉焼け・乾燥防止には！

「アグリボ EX」を葉面散布する時に、1,000倍に希釈した「ヤワラ」を混用してください。「ヤワラ」中の多糖類が夏場の葉焼け・萎れを防ぎます。

根力（ねぢから）を獲得！

菊の根は、新しく伸び出してから150～160日で生長がピークに達します。開花期まで根の活力を保つために、1週間から10日おきに灌水用剤「森羅」2,000倍希釈液を灌水してください。

天候不順が予想される場合、「アグリボ EX」の代わりに「光触媒」入り「アグリボ3」の3,000倍希釈液の散布が有効です。

「アグリボ EX」や「アグリボ3」を葉面散布する際、「展着促進材」（界面活性剤・トレハロース）入り「ヤワラ」を1,000倍希釈相当で加用すると、散布液の展着性向上に効果的です。

ご質問 フリーダイヤル イーハナ イーヤサイ アグリボ
ご相談 **0120-187-183** 相談室

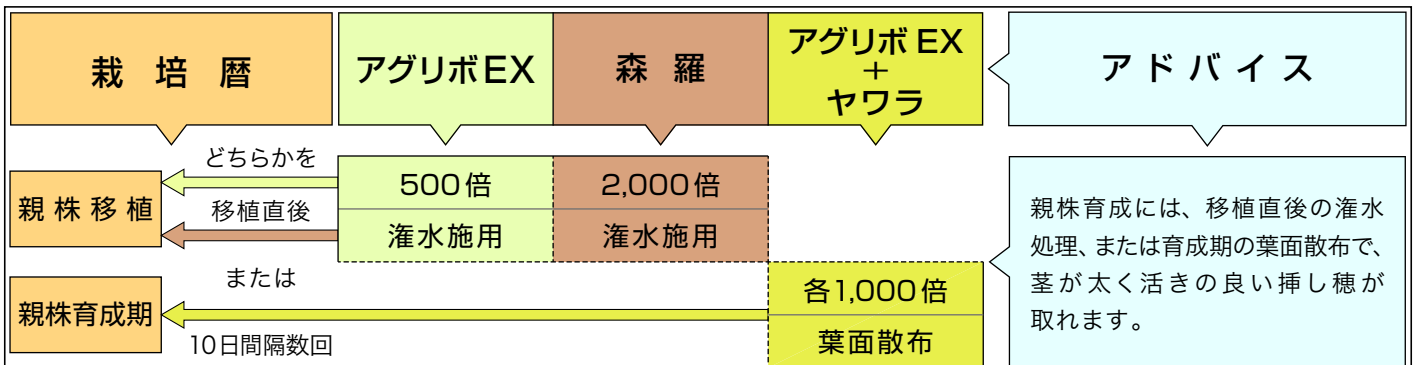
AGREVO

<http://www.agrevo.co.jp/>

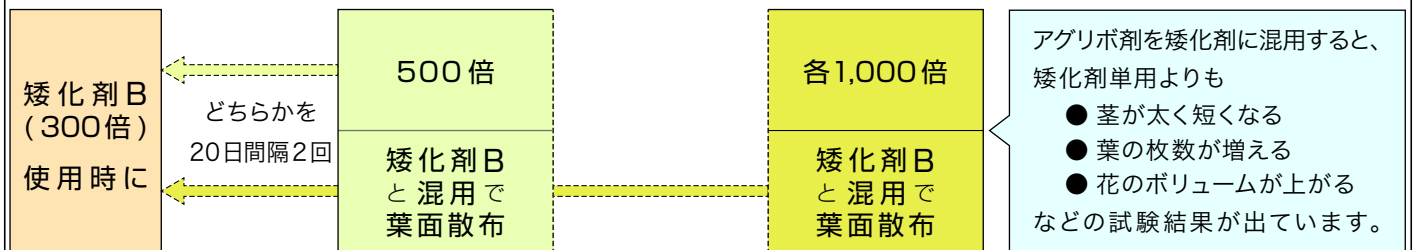
株式会社アグリボ 〒240-0035 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町528
TEL:045-352-5327 FAX:045-352-5328

「福助作り」、「だるま作り」の場合

矮化剤を使った場合、葉の数が減ったり葉が小さくなったりして、その結果花が小さくなる場合があります。「アグリボ EX」、展着促進材入りカルシウム剤の「ヤワラ」、灌水用「森羅」等を活用して、菊の品質改善を図って下さい。下記は、福助作り(矮化剤B使用)で実施した試験結果をもとに整理した、「アグリボ」剤の使用法の一例です。



- 挿し芽苗定植後 矮化剤使用期 -



矮化剤を単用で使用したい場合

通常通り矮化剤を使用し、その前後・合間に、下記のいずれかの方法で7～10日間隔で処理してください。

- ① アグリボEX 500倍で灌水施用
- ② アグリボEX 1,000倍 + ヤワラ 1,000倍で葉面散布
- ③ 森羅 1,000～2,000倍で灌水施用

矮化剤を多用する場合

長幹品種を矮化させるためには、矮化剤を濃くしたり処理回数を増やす必要があります。その場合アグリボEXを混用すると、花弁の伸びが遅れることがありますので、矮化剤とアグリボEXを単用で交互に処理する方法をお勧めします。

天候不順が予想される場合、「アグリボEX」の代わりに“光触媒”入り「アグリボ3」の3,000倍希釈液の散布が有効です。

「アグリボEX」や「アグリボ3」を葉面散布する際、“展着促進材”(界面活性剤・トレハロース)入り「ヤワラ」を1,000倍希釈相当で加用すると、散布液の展着性向上に効果的です。

ご質問 フリーダイヤル イーハナ イーヤサイ アグリボ
ご相談 **0120-187-183** 相談室

AGREVO

<http://www.agrevo.co.jp/>

株式会社アグリボ 〒240-0035 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町528
TEL:045-352-5327 FAX:045-352-5328

菊の挿し芽の時のアグリボEXの使い方

2012年4月

- 1. 効能：** IBA剤（ホルモン剤）にアグリボEXを混合し、菊の挿し穂を処理してから挿し芽すると、発根数が増え根の長さがそろう。（移植後の生育が旺盛になり、かつ安定する。）
- ◆ホルモン剤（農薬）の使用を避けたい場合は、アグリボEX（肥料）のみでも発根促進が可能（方法⑤または方法⑥）。

- 2. 使い方：** 次の方法①～⑥のいずれかを選択してください。

IBA液剤（0.4%）を使って浸漬する場合（続けて“だんご挿し”する場合は、薬剤を調合しないで“だんご挿し”する。）

	薬剤希釈倍率		処理方法	薬液の調製法の一例（配合割合）		
	IBA液剤	アグリボEX		水	IBA液剤	アグリボEX
方法①	750倍	1,000倍	挿し穂基部を、薬液に3時間漬ける。（水揚げ）	3ℓに対して	4ml	3ml
方法②	150倍	250～500倍	挿し芽の直前に、挿し穂全体を薬液に10秒間漬ける。	3ℓに対して	20ml	6～12ml
方法③	2倍	50～100倍	挿し芽の直前に、挿し穂基部を薬液に10秒間漬ける。	100mlに対して	100ml	2～4ml

備考：社内試験の結果では、方法③の結果が最も良かった。

IBA粉剤（0.5%）を使って“だんご挿し”する場合（水揚げは、“水”だけのこと。）

	処理方法	だんご処理液の調製法の一例（配合割合）			
		鹿沼土（粉）	IBA粉剤	アグリボEX	水
方法④	<ul style="list-style-type: none"> ● 鹿沼土の粉に所定量の薬剤（右表参照）を混ぜたものに少しずつ水を加え、適当な柔らかさになるまで溶く。（処理液調製） ● 挿し芽の直前に、挿し穂の基部を処理液に漬け、パーミキュライト微粉をまぶして“だんご挿し”する。 	200ml (80～100g) に対して	10g*	2～4ml	100～120ml

方法④：* IBA粉剤の代わりに、**IBA液剤**を使って“だんご挿し”する場合は、配合量は12.5mlとし、加える水を少なくする。

アグリボEXのみで発根促進させる場合（“だんご挿し”する場合は、薬剤を調合しないでだんご挿しする。）

方法⑤：挿し芽前に、挿し穂基部をアグリボEX希釈液に浸漬する。（10倍希釈液で5分、または100倍希釈液で1時間）

方法⑥：（高温期で、方法⑤で腐れが出やすい場合）挿し芽翌日及び4日後の2回、アグリボEXの50倍希釈液を葉面散布する。

3. 挿し芽後の管理

- 挿し芽後の灌水や日照管理は、通常通り。
- 但し、通常より発根が速まるので、根が伸び過ぎないように注意する。

4. 注意事項

- 調製した浸漬液やだんご処理液は、その日のうちに使い切る。（雑菌繁殖）
- 残った処理液は、挿し芽床土には入れない。（薬害・雑菌繁殖）
- 残った処理液は、ホルモン剤で他の植物を汚染しないように注意し、土に埋める等して適切に処分する。